令和３年　　月　　日　制定

**コロナ禍での大会開催マニュアル**

和歌山県バレーボール協会

**■はじめに**

　新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、大会の開催に向けて、選手、指導

者、保護者や運営スタッフなど、関わる全ての皆さんが安心して参加してもらうために、どんな感染拡大防止策をとるべきか対応策をまとめました。

　これらの対応策が整わない場合は、大会の中止又は延期をお願いします。

　大会を開催するにあたっては、今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況や政府、

ＪＶＡ、和歌山県、開催地市町村、各カテゴリーの統括団体、県協会から発せられる

情報を踏まえ、十分に熟考し判断してください。

　なお、対応策が十分に行えた場合にも、その時点での感染症拡大状況に合わせて、

急な中止又は延期を行えるような準備をお願いします。

**■基本的な考え方**

　無症状の感染者がいることを前提にすると、一旦大会を開催すれば選手やチーム

スタッフ・応援者・大会役員・施設管理者など、全ての関係者の感染リスクを高めることは避けられません。

　感染拡大防止には、個人防衛、集団防衛、社会防衛の３つの見地から考える必要が

あり、何よりも重要なのは、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら、また自分の身

の回りに濃厚接触者が、或いはその可能性がある人がいる場合などは、選手・チーム

スタッフ並びに大会役員は休む勇気を持つこと、応援者にあっては会場には行かない

ということを浸透させることが重要です。

　感染予防は、一般的に「マスクの着用」、「３つの密」（密閉・密集・密接）を避けることが重要とされていますが、「感染者或いは感染の疑いがある人を会場に入れないこと」が最大の感染拡大防止策であることを、主催者・参加者双方が肝に銘じなければなりません。

その意味で、役員個々は勿論のこと、選手・チームスタッフ・応援者を統括する

チーム責任者の責務は重大であることを、再認識していただく必要があります。

**■主催者として対応すべき事項**

**１ 大会会場・競技備品類**

(1） 換気の悪い密閉空間とならないよう、十分な換気を行う。具体的には、試合間、

　　 セット間など定期的に、ドア等を開放して外気を取り入れる等の換気を行う。

　　 また、空調（換気）設備なども活用する。

(2） 試合球はできるだけ複数個用意し、こまめに消毒・清掃を行って交換（両チー

　　 ムの合計点が５の倍数に達したとき）しながら使用する。

(3) 線審のフラッグ、得点板、モップ等試合で使用する備品類は、こまめな消毒を

　　 行う

(4) 感染リスクが比較的高い施設・物（トイレ・更衣室・休憩・待機スペース等の

　　 共用場所は参加者が触れると考えられる箇所・物は定期的に消毒する。

(5) アルコール等の手指消毒剤を用意し、会場の出入り口等へ配置すること。

(6) 役員控室等には、関係者以外が立ち入ることのないようにする。

(7) 入退時の出入り口を可能な限り分離し、人の流れの一方通行化等、人と人とが交

 錯する機会を極力減少させる等配慮する。

(8) 予め参加チーム毎の待機場所を指定する（観客席またはフロアー内などに）。

**２ 運営スタッフの体調管理**

 運営に関わる全てのスタッフの検温・健康確認を実施するとともに、参加者同様

　 入館時に「健康チェックシート（提出用）」を提出する。大会役員も参加者として

の義務を遵守する。

 　県協会が指定する大会並びにＶリーグへの派遣役員は、委嘱された日（大会開催

 日より２週間前）より「健康チェックシート」の記入をし、大会当日に必ず提出

　 をすること。

**３ 受付時の留意事項**

　 受付スタッフおよび参加者が密接しないようにする。

(1) 人と対面するためマスク・ポリ手袋を着用し、アクリル板等で遮蔽するか、フェ

 イスシールドなどを活用するなど接触・飛沫感染を予防する。

(2) 風邪（発熱・咳等）症状のある者は、入場できないことを呼びかける。

(3) 参加者が距離を置いて並べるように目印等を設置する。

(4) 入場者全員を非接触型体温計で検温する。

 　※37.0℃以上は普通体温計にて再検温を実施し、37.5℃以上は入場を拒否する。

 また 37.0℃～37.5℃未満は、チーム責任者立ち合いの下で協議を行い、感染疑

いのある者は入場を拒否する。

(5) 入退場口を限定し、担当者を常時配置して入退場者を監視させる。一時的に退場

 を希望する者には、参加証等を発行するなど厳格な管理を行う。

**４ 式典・表彰等**

 　開・閉会式などは極力実施せず、表彰はコート表彰とする。

 　開・閉会式などの式典は、参加者が密とならないようにし、内容の簡略化や拡散

 整列・代表者参加などができるものとする。

**５ 競技運営について**

(1) 体育館内（競技エリア内）は、試合を行うチーム、審判団（主審・副審、記録員、

 ラインジャッジ、得点係）、競技運営スタッフのみとする。

(2) セット間、試合間の窓・扉の開放換気や大型扇風機などを活用し積極的な換気に

 努める。

(3) 競技エリアのレイアウトは、参加者の密集・密接な環境を避けるため、競技に著

 しい影響を与えない範囲で競技規則を変更※できるものとする。またチームスタ

 ッフはマスク着用、控え選手もマスク着用が望ましいが熱中症の危険が伴う場合

 はこの限りとしない。

　　　※ベンチ椅子の減及び間隔を空ける、アップゾーンの拡大・位置変更、給水

場所、コートとベンチとの距離を長くするなど

(4) 選手のタオル・給水ボトルなどは、個人毎の袋またはカゴなどで管理させる。

　　また可能な範囲でベンチ・ウォームアップゾーン付近などに、それらの置き場を

 設ける。（共用の禁止）

(5) 試合終了毎に競技エリア（椅子・モップ・線審フラグ・得点板・記録席・審判台

 など）の消毒を行い、消毒が終了するまで、次試合チームを競技エリアに入場さ

 せない。尚、試合を行ったチームに消毒作業を義務化してもよい。

**６ 審判について**

(1) 主審・副審

 　 ア マスクを着用し、試合前後に監督・選手との握手は行わない。

また、トスは、選手との距離を保ち、短時間ですませる。

 イ 主催者の意向で、電子ホイッスルで試合を進めてもよい。

 ウ 大会によっては、電子ホイッスルで試合を進めてもよい。

 エ 笛を使用する場合は、会場や環境に合わせた音量で吹笛を短くするように

 心がける。（試合をコントロールできる最低限の音量で吹笛すること）

 （笛については、使用前後の洗浄または熱湯消毒を実施する）

(2) 記録

 ア 会話をすることがあるので、マスクまたはフェイスシールドを着用する。

 また、大きな声や対面での会話は控える。

 イ ボールペン等は、共用使用をできるだけ避ける。サイン採取時は、専用の

 ペンや消毒等工夫をする。

(3) 線審

 ア 会話をすることがないのでマスクの着用は必須としないが、自主着用は妨げ

 ない（体を動かすことがあるため、熱中症予防の観点から）。

⇒　マスク・手袋の着用徹底

 イ フラッグは、試合前後に消毒を行う。

 ウ 暑熱状況等に応じて、セット毎の交替や飲料の携帯を認める。

(4) その他

 ア 点示者・ボール消毒者の対応は線審と同様とする。⇒マスク・手袋の着用徹底

 イ 審判の責任者は、控室等に遵守すべき事項を掲示するなど、感染拡大防止の

 環境整備を行う。

**７ 観客の管理**

(1)　マスクの着用を求め、観客出入口付近にはアルコール等の消毒液を設置する。

(2)　観客の数を減らして（収容定員の半分程度以内）、間隔を開けるなどの対応を

する。特に試合前後には通路等に人が押し寄せて密になる可能性が高い為、

主催者によるコントロールが必要。

(3)　体育館の窓際通路など、観戦場所が狭いスペースに限られる場合、当面は観客

の入場を不可にする。

(4)　体育館に設置しているスリッパ等は貸与しない。

**８ その他**

(1) 感染対策と共に熱中症リスクにも備えること。特にマスク着用者へはこまめな

 水分補給を促す。

(2) 代表者会議は必ず実施し、感染症対策・熱中症対策について厳に徹底する。

(3) 感染者発生時における追跡・調査を可能とするために提出された書面（チェック

 シート等）については、個人情報として保管し１ヶ月を目途に適切な方法で廃棄 する。

(4) 参加者（応援者含む）に対して、厚生労働省が推奨する感染者接触確認アプリ

 （ＣＯＣＯＡ）の活用を促す（入場時、場内放送、代表者会議、開会式などで）。

(5) 役員の昼食については、接触機会最小化の観点から、弁当代を旅費日当に含めて

　　支給することができるものとする（昼食持参としてもよい）。

(6) 会場毎に感染症管理者を選任する。管理者は感染症対策が遵守されているかを

　　監視し、必要に応じて場内放送や拡声器などを用いて指導を行う。

　　またパトロールなどを実施する場合は、管理者の証となる腕章またはビブスなど

を着用する

**■参加者が遵守すべき事項（選手・チームスタッフの義務）**

　本内容を遵守できない者およびチームには、会場への入場を拒否したり、途中退場

　を求めたりすることがあります。チーム責任者は、必ず本内容を参加者（応援者含

　む）に周知・徹底すること。

**１　参加者が遵守すべき事項**

(1） 会場内への入場は、**別紙１「健康チェックシート（チーム用）」**を提出した次の

者とする。

 ア スタッフ（部長、監督、コーチ、マネージャーなど、当該大会要項による）

 イ 選手（本大会にエントリーした者のみ）

 ウ 応援者（感染症拡大状況により、都度大会の主催者が判断するので、それに従

　　 うこと）

 ※1) ア～ウ及び大会役員以外は体育館には入場できない。入場の際は各自大会前2

週間における健康状態と感染リスクの有無を記入した、**別紙２「参加者健康チ**

**ェックシート（提出用）」**を提出する。またチーム責任者は、事前に自チーム参加者に配付(最低2週間前)し、入館時までに記入、取りまとめておくこと。

 ※2) 参加者は各自で当日朝の体温を測りチーム責任者に報告する。チーム責任者は

　　　それを別紙１「健康チェックシート（チーム用）」にまとめ、別紙2「参加者

健康チェックリスト」と共に入館時、受付に提出すること。

　（予め責任者が全員の健康状態を把握する）

 ※3) 会場の入り口で大会スタッフによる検温を実施するので協力すること。

 （検温で37.5度以上は入館できない。また37.0～37.5未満は、チーム責任者立

　　　ち合いの下で協議し、感染リスクが高いと判断された場合は入館できない）

(2） 大会前２週間前において、次に該当する者は自主的に参加を見合わせること。

　ア 平熱を超える発熱、咳・のどの痛みなど風邪の症状、嗅覚や味覚の異常

　イ 体が重く感じる（だるさ、倦怠感）、疲れやすい、息苦しい（呼吸困難）等

　ウ 新型コロナウイルス感染症の陽性者との濃厚接触が確認された場合

　エ 同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方がいる場合

　オ 過去14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・

　　 地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触があった場合

(3) マスクを持参し着用すること（**コート内でプレー中のみ外しても良い**）

(4) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を頻繁に実施すること

(5) 他チームの参加者、大会役員等との距離を確保（できるだけ２ｍ以上）するこ

　　 と。また、チーム毎に控え場所（荷物や待機するスペース）を決めるので、

 極力決められた場所にいること。またチーム毎に消毒液等を持参し、使用の

 前後に控え場所の消毒を行う。

(6) 大会開催中は大きな声での会話、応援等をしないこと。

(7) 大会終了後、２週間以内に参加者が新型コロナウイルス感染症を発症した場合

 は、主催者にも速やかに報告すること。

　　　　**（報告先：理事長 和田惠介 tel. 080-2527-1847）**

(8) その他、感染防止のために主催者が定めた措置を遵守し指示に従うこと。

**２ 競技中に遵守すべき事項**

(1） 競技中の円陣やベンチでの集合時における密集・密接、大声の発生などは極力

　　 避ける。

(2) 競技中の選手同士のハイタッチなど、パフォーマンスは極力控えめにする。

(3) ネット際での、相手コートに向いた状態での発声は控える。

(4) タオル、水ボトル等は共用しないこと（袋・カゴなどに入れ選手個々に管理の

 こと）

(5) コイントス時、主将と審判間のあいさつ、試合前後の握手は一礼などに代える。

(6) 試合終了後は、チームの責任でベンチ・モップ等を消毒してから退場する

**■健康チェックシートの取り扱い**

　１　健康チェックシート(自己管理用)

　　　大会参加役員・選手・スタッフは

大会2週間前より体温測定・体調確認・行動記録等をつけておく。

２　健康チェックシート（提出用）

　　○１の自己管理用を元に作成する。

　　○１８歳未満の参加者については、保護者の承認として、保護者の氏名を記載

する。

　　　○協会役員等は、会場入場時検温後、受付に提出

　　　○チーム責任者は、選手・スタッフのチェックシートを取りまとめて、４の

健康チェックシート(チーム用)と一緒に受付に提出する。

　３　健康チェック管理シート(県協会役員等)

　　　○派遣依頼等から参加者の名簿を作成しておく。

　　　○当日受付にて検温を実施し、体温を記入し役員控室に掲示しておく。

　　　○大会終了後、役員室等を出るとき大会時間を記入させる。

　４　健康チェックシート(チーム用)　(付添い・応援用)

　　　○チーム責任者は、選手・スタッフの　「２　健康チェックシート（提出用）」

　　　　を取りまとめ、入場時の検温を記入し、受付に提出する。

　　　○付き添い・応援者を入場させる場合、チーム責任者は、「(付添い・応援用)」　　　　　を作成し、受付に提出する。

　５　体育館等を退出する場合は、必ず対策責任者に申し出て許可を得ること。

　　　許可なく出入りをした場合、再度の入館(入場)は拒否できる。

　６　１～４の各書式は標準であるため、各カテゴリーで異なる場合があるので、各提出書類(健康チェックシート等)は、各大会で指定されたものを提出してください（様式は各連盟・大会要綱で確認してください）。

**【　別紙　】大会要項に記載すべき内容**

**新型コロナウイルス対策感染防止策**

●選手および関係者（応援等の保護者も含む）参加者が以下の事項に該当する場合は，参加の見合わせを求めること（試合当日に書面で確認を行う）

* + - 体調がよくない場合（例:発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
		- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

※身近な知人⇒友人・クラスメイト・クラブ部員(他クラブとの接触含む)

* + - 過去14日以内に政府から入国制限，入国後の観察期間を必要とされている

国，地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

●マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や

会話をする際にはマスクを着用すること）

●こまめな手洗い，アルコール等による手指消毒を実施すること

●他の参加者，主催者スタッフ等との距離（できるだけ２ｍ以上）を確保すること

（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く）

●大きな声で会話，応援等をしないこと

●感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守，主催者の指示に従うこと

●大会終了後２週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は，主催者に

対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること